

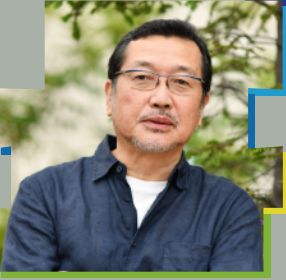
ホルムズ海峡と自衛隊派遣

憲法9条の意義を考える

2026

7.11(土) 14:00-16:00

開場 13:30



敵基地攻撃と日米一体化～防衛費倍増は国民負担に～

講師：半田 滋 (防衛ジャーナリスト、獨協大学非常勤講師、元東京新聞論説兼編集委員)

1955 年生まれ。防衛ジャーナリスト、獨協大学非常勤講師、元法政大学兼任講師。元海上保安庁政策アドバイザー。下野新聞社を経て、91年中日新聞社入社。元東京新聞論説兼編集委員。92年より防衛庁(省)取材を担当。2007年、東京新聞・中日新聞連載の「新防人考」で第13回平和・協同ジャーナリスト基金賞(大賞)を受賞。

2019年よりYouTube番組であるデモクラシータイムスの「半田滋の眼」に出演。週刊金曜日に「半田滋の新安全保障論」を連載中。著書に、「半田滋の新安全保障論-『安倍政治』の現在地」(あけび書房)、「パラレル 憲法から離れる安保政策」(地平社)、「台湾侵攻に巻き込まれる日本 安倍政治の『後継者』」(あけび書房)、「岸田首相の敵基地攻撃と防衛費倍増の真実」(あけび書房)、「戦争と平和の船、ナッチャン」(講談社)、「変貌する日本の安全保障」(弓立社)、「安保法制下で進む!先制攻撃できる自衛隊-新防衛大綱・中期防がもたらすもの」(あけび書房)、「検証 自衛隊・南スーダンPKO-融解するシベリアン・コントロール」(岩波書店)、「零戦パイロットからの遺言-原田要が空から見た戦争」(講談社)、「日本は戦争をするのか-集団的自衛権と自衛隊」(岩波新書)、「僕たちの国の自衛隊に21の質問」(講談社)、「『戦地』派遣 変わる自衛隊」(岩波新書)=09年度日本ジャーナリスト会議(JCJ)賞受賞、「自衛隊vs北朝鮮」(新潮新書)などがある。

アメリカは、今年に入り、ベネズエラやイランへの軍事行動を行い、軍力による現状変更を繰り返し、その暴挙に国際社会が振り回されています。我が国政府は、同盟国による国際法違反行為に対して、明確な態度を示さないままです。

我が国は、世界に冠たる平和憲法である日本国憲法第9条を持ち、戦争放棄・戦力不保持を掲げながらも、2015年に成立した安保法制法やこれに基づくいわゆる安保三文書によって、集団的自衛権行使という名目でアメリカをはじめとした他国の戦争に参加することができるようになり、従来持ち得ないとされてきた戦力である敵基地攻撃能力を保有するに至っています。

このように我が国の安全保障体制が変容している中において、同盟国アメリカの軍事行動によって我が国がどのような影響を受け、我が国及び自衛隊がどのような行為をしなければならないのでしょうか。

長年にわたり自衛隊の取材を続けてこられた半田滋氏は、自衛隊が変容し、日米が一体化してきていると警鐘を鳴らしておられます。講師にお迎えして、最近の情勢を踏まえた実態をお話しいただき、我が国の安全保障のあり方をご一緒に考えましょう。

岡山弁護士会館 2階大会議室
(岡山市北区南方 1-8-29)& YouTube
岡山弁護士会チャンネル

岡山弁護士会

検索

主催/岡山弁護士会 共催/日本弁護士連合会(予定)、中国地方弁護士会連合会(予定)

お問合せ/岡山弁護士会 岡山市北区南方 1-8-29 | TEL086-223-4401 | URL <https://www.okaben.or.jp/>

参加無料・予約不要